



出身大学・卒業年度 : 大阪大学大学院工学研究科応用生物学専攻・2003年博士前期課程修了
 博士・修士・卒業論文タイトル: アルギン酸カルシウムマイクロビーズによる巨大DNA分子のデリバリー

現在の仕事について

◆担当職務

・研究本部の中期計画および年間計画/目標の策定とPDCA サイクルの管理。
 ・研究本部内での重点施策の立案およびその運営。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容
 (2003年-2011年) 医薬研究本部探索研究センターにて *In vitro* 化合物評価系の構築および分子スクリーニングを担当。

(2011年-現在) 本部長室研究戦略グループ

◆そこでのやりがい

「探索」という研究業務を通じて、さまざまな新薬候補化合物の第一発見者になることができました。自分の出した結果をもとにプロジェクトが大きくなっていく過程を見ることができたとき、自分の存在意義と結果責任を強く感じました。

◆現在の会社・組織 (アカデミアを含む) の魅力

弊社は日本発のグローバルカンパニーとして大きな改革の真っ只中にあります。新しい挑戦に常に挑み続ける姿勢は、社内外からも評価されているところだと思います。

◆現在の就職を決めた理由

製薬会社での研究職は、研究と医療を結びつけるプロセスに携わることができる働きがいのある職種だと純粋に思いました。日本の産業の活性化に貢献したいという思いもありましたので、内資系の企業への就職を希望していました。

◆将来設計 (描けるキャリアパス)

私は現在、専門職大学院でMOT (技術経営) を学んでいます。研究者と経営者の橋渡しとして活躍できるよう、実務を含めてマネジメントの全般を学べるよう、さまざまなポジションを経験したいと思っています。

◆挑戦したいと思っていること

MOT での研究を通じて、社外の人脈を積極的に広げ、精神的にタフになれるよう努力したいと思っています。

◆社会人として一番感動したこと

皆家族のために仕事しているのだと実感したこと。

◆社会人として一番困難だったこと & どう乗り越えましたか

研究成果が出ないというか、実験自体を成立させることができず、白黒つけることすらできずに前にも後ろにも

進まないときはやはり苦しいです。巨額の投資判断の期日が迫るとなさらずです。自分(あるいは自分のプロジェクト)は、上の上から見れば所詮ちっぽけな存在であると割り切って、冷静になることが大切です。

◆仕事のプロになるコツ

「学ぶ」→「実践する」→「教える」のサイクルを、定期的に回し続けることでしょうか。自分の専門外の世界に足を踏み入れて学ぶ姿勢も時には大切です。

◆理系人材力, どこで発揮していますか?

製薬会社の研究部門では、サイエンスがビジネスになっていますから、理系の知識なしには仕事できません。生物工学会に参加して勉強させて頂くこともあります。

人生について

◆何のために働くのですか?

誰かの役に立ちたいと思う気持ちがあるからなのでしょう。それが顧客 (患者さん) であれ、同僚であれ、プロジェクトメンバーであれ、誰かに感謝されるということを常に期待しているのだと思います。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

より明るい未来に向けて投資をするためだと思っています。薬の世界も同じです。今の薬の売上でもって、未来の薬の研究開発が行われているのです。

◆ワークライフバランスで工夫していること

スケジュール管理は、仕事とプライベートの混同を許容しています。実はこの方がWLBは改善されます。

◆現在の夢

小さくても自分の会社をもつこと。

◆将来の展望

60歳で社長。60歳まで常に右肩上がりです↑↑

後輩へ

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
 国際的な恋愛。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

私にとっては、後輩の皆さまから学ぶべきことが多々あります。機会があれば、いろいろとご教授くださいますようよろしくお願いいたします。

連絡先 E-mail: atsushi.mizukami@takeda.com